

土曜

SATURDAY

ペットライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医のカルテ



30



かすや愛犬病院長
(富山市北新町)
 粕谷 圭治

冬本番を迎え、寒さが厳しい季節になりました。暖を取ろうと、飼い犬がクレートや毛布の中で過ごす時間も長くなっているでしょう。この時期は、毛布や敷物などが目に触れて角膜が傷つき、目が開かないと来院される患者さんが多くなります。通常は数日の治療で完治しますが、中高年の犬の中には、治りにくい角膜の疾患を発生していることがあります。「スケツズ」と呼ばれる角膜のさかむけのような病気です。

スケツズとは、慢性突発性角膜上皮欠損症(Spontaneous Chronic Epithelial Defect=SCEDs)の略称で、角膜の表面が剥がれて潰瘍を起す角膜炎

犬の難治性角膜疾患



診断のため角膜染色を行ったトイプードル

の一種です。角膜がこすれて起きる単純な角膜炎は、7日間ほどで完治することが多いですが、さまざまな原因で治りにくい場合があります。例えば、

- ・動物が飼い主の気付かないところで目をこすっている
- ・まつげに異常がある
- ・結膜内に異物がある
- ・まぶたの形態や涙を分泌する器官に異常がある

内服薬・点眼薬を投与

・目の神経(顔面神経、三叉神経)の病気がある
 ・目以外の疾患が存在している

ります。シャンプーが目に入った場合は、しっかりとすすぐよう指導していただきます。発症すると、強い痛みを生じることが多く、目を閉じると涙で目頭がぬれて歌舞伎のくまどりのように見えることもあります。痛みによって頭を触られるのを嫌がる動物もいます。早急の治療を開始しないと患部を気にして傷を悪化させてしまいかもありません。

スケツズの診断には、角膜の傷

などの深さや大きさを調べる角膜染色と細隙灯検査を中心に行い、原因を究明します。治療は、内科治療と外科治療を併用していきます。

内科治療は、角膜の上皮化の促進、抗炎症作用、感染症の予防を目的とした内服薬、点眼薬を投与します。外科治療は、角膜の再生を目的とした角膜剥離術、角膜浅層穿刺術、格子状角膜切開術と、眼帯のように角膜を保護する瞬膜被覆

術、眼瞼縫合術、ソフトコンタクトレンズの装着などが一般的です。治療期間は長期にわたることが多い病気なので、根気よく角膜表面が根付くまでじっくり取り組むことが肝要です。

目の病気に限らず、動物の病気の重症度は飼い主に分かりにくいことが多いです。ネットの情報などから自己判断せず、早く動物病院に相談する習慣を身につけたいものです。